

## はじめに

初めて中学受験の問題を見たとき、その難しさに驚かされました。こんな難しい問題を小学生が解ける事が信じられませんでした。その後、沢山の問題に出会い、それらの問題が解けるようになるための教材を作っているうちに、次第にその面白さに惹かれて行きました。中学受験の算数はまさに頓知の世界であり、発想力が勝負の世界です。ちょっと難しい問題も、ほんの少し視点を変えてみると、答えが浮かび上がってくる、そんな問題が沢山あるのです。

5年生や6年生になってから取り組む問題は、計算力に加え、比や割合など、多くの小学生が苦手とする内容が複合的に組み合わせられます。さらに図形部分では、見えないものをイメージする力とそれを答えに結びつける発想力が求められるので、とても難しく感じられます。ここで求められる発想力は、それだけ取り出すと決して難しいものではなく、ほとんどの小学生が理解できるものです。本来、頭が柔軟なうちに、もっと簡単な例で、面白さを感じながら発想する力を伸ばし、工夫する楽しさを身につけていくことが望ましいのです。

そのための教材を試行錯誤しながら考えたとき、パソコン教材とペーパー教材を連携させて学習する本書のようなスタイルにたどり着きました。

本書で取り上げた問題の中には、すぐに答えを見つけられるものもあるかもしれませんが、しかし、大切な事は、そこでどんな工夫をしたのか、ということです。お子様が書いた答えを確認するとき、次の3つの点に留意してください。

- 1) 出来たか出来ないかを確認するだけでなく、お子様が考えた解き方がそこから読み取れるかどうか注目してください。
- 2) 解き方がうまく表現出来ていなかったときには、どこをどのようにして考えたのかを質問し、説明させましょう。
- 3) お子様が説明したことを、その内容がわかるように、本書に整理させましょう。誰にでもわかるように、ノートに表現できる力は、自分の考えを外に向けて発信する力です。これは、正解を出せることと同じくらい大切な力です。

巻末に、お子様の学習を効果的にサポートするための学習のアドバイスを用意しました。みるみる算数は、数人で楽しみながら学習できる教材です。お子様と一緒にパソコンに向かった時に、適切な声かけができるような内容にしました。ぜひご活用ください。

本書を通して、お子様が「算数って面白い！」と感じていただければ、こんな喜びはありません。

2010年10月 鈴木 博文